

# CASBEE神戸ver.3

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD\_NC\_2016(v.3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	トーカロ(株)神戸第二工場	階数	地上3階
建設地	兵庫県神戸市西区見津が丘1丁目10	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	35人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年4月 予定	評価の実施日	2024年4月11日
敷地面積	3,050 m <sup>2</sup>	作成者	㈱黒田建築設計事務所 湖亀 一登
建築面積	1,300 m <sup>2</sup>	確認日	2024年4月12日
延床面積	3,123 m <sup>2</sup>	確認者	㈱黒田建築設計事務所 湖亀 一登



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 1.2</b> ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>★☆☆☆☆</p> <p>30%: ★☆☆☆☆ 60%: ★☆☆☆☆ 80%: ★☆☆☆☆ 100%: ★☆☆ 100%超: ☆</p> <p><b>標準計算</b></p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>Q1のスコア= 2.7</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>Q2のスコア= 3.3</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>Q3のスコア= 3.3</p>
LR 環境負荷低減性		
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>LR1のスコア= 3.2</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>LR2のスコア= 3.2</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>LR3のスコア= 3.2</p>

3 CASBEE神戸の重要項目		
バリアフリー計画	建築物の耐震性等	まちなみ・景観への配慮
<p>Q-2/1.1.3 バリアフリー計画</p> <p>3.0</p>	<p>Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振</p> <p>3.0</p> <p>Q-2/2.4 信頼性</p> <p>2.8</p>	<p>Q-3/2. まちなみ・景観への配慮</p> <p>5.0</p>
<p>配慮の概要</p> <p>0</p>	<p>配慮の概要</p> <p>0</p>	<p>配慮の概要</p> <p>0 敷地境界線からの壁面後退距離を確保、道路沿いには植栽帯を設け周辺への圧迫感を軽減。外壁色はホワイトをメインカラーとし、形状もシンプルな四角形とすることで景観に違和感を与えないよう配慮しました。また、敷地内に地域への開放施設として自動販売機とイトインスペースを併設した休憩棟を設置。</p>
<p>その他の配慮事項</p> <p>0</p>		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)  
トーカロ(株)神戸第二工場

■使用評価マニュアル CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築  
■評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD\_

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.1
Q1 室内環境							0.30		-	2.7
1 音環境						2.2	0.15		-	2.2
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	1.0	-	
1.2 遮音						1.0	0.40		-	
1 開口部遮音性能						1.0	0.60	1.0	-	
2 界壁遮音性能						1.0	0.40	1.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						1.0	-	1.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						1.0	-	1.0	-	
1.3 吸音						3.0	0.20	1.0	-	
2 温熱環境						2.3	0.35		-	2.3
2.1 室温制御						3.7	0.50		-	
1 室温						3.0	0.38	1.0	-	
2 外皮性能						3.0	0.25	1.0	-	
3 ゾーン別制御性		冷暖房フリー、40m程度に1台PAC設置				5.0	0.38		-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20	1.0	-	
2.3 空調方式						1.0	0.30	1.0	-	
3 光・視環境						2.8	0.25		-	2.8
3.1 昼光利用						4.2	0.30		-	
1 昼光率		昼光率計算書による				5.0	0.60	1.0	-	
2 方位別開口							-	1.0	-	
3 昼光利用設備						3.0	0.40		-	
3.2 グレア対策						3.0	0.30		-	
1 昼光制御						3.0	1.00	1.0	-	
3.3 照度						3.0	0.15	1.0	-	
3.4 照明制御						1.0	0.25	1.0	-	
4 空気質環境						3.5	0.25		-	3.5
4.1 発生源対策						4.0	0.50		-	
1 化学汚染物質		内装材にはF☆☆☆☆のみ使用				4.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気						3.0	0.30		-	
1 換気量						3.0	0.33	1.0	-	
2 自然換気性能						3.0	0.33	1.0	-	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.33	1.0	-	
4.3 運用管理						3.0	0.20		-	
1 CO <sub>2</sub> の監視						1.0	0.50		-	
2 喫煙の制御		建物内は禁煙				5.0	0.50		-	
Q2 サービス性能						-	0.30		-	3.3
1 機能性						3.4	0.40		-	3.4
1.1 機能性・使いやすさ						2.6	0.40		-	
1 広さ・収納性		事務室 7.3*14.2=103.66㎡/10人 10.3㎡/人				4.0	0.33	1.0	-	
2 高度情報通信設備対応						1.0	0.33	1.0	-	
3 バリアフリー計画						3.0	0.33		-	
1.2 心理性・快適性						4.0	0.30		-	
1 広さ感・景観		天井高2.7m 東・南面に窓を複数設置				4.0	0.33	1.0	-	
2 リフレッシュスペース		レストスペース 7.2*3.1=22.32㎡ 自動販売機設置				5.0	0.33		-	
3 内装計画						3.0	0.33		-	
1.3 維持管理						4.0	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計		内壁面の塗装はEP-Si、外部鉄部は溶融亜鉛メッキ仕上				4.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保		廊下にコンセント設置、各階にSK設置、屋外に廃棄物スペース確保				4.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性						2.9	0.30		-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.0	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.22		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.22		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:ビニル床シート 壁:EP-Si(ボード下地) 天井:化粧せっこうボード				5.0	0.11		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外露出ダクトはガルバリウム鋼板にてラッキング				-	-		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						3.0	0.22		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.22		-	
2.4 信頼性						2.8	0.20		-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備						2.0	0.20		-	
3 電気設備						3.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法		耐震クラスA				4.0	0.20		-	
5 通信・情報設備						2.0	0.20		-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.6</b>	0.30	-	-	<b>3.6</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.6</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高6.1m	5.0	0.60	1.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比=0.13	4.0	0.40	1.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>2.0</b>	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.4</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	主要設備機器は外部(屋上)に設置	5.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		環境形成協定に基づいた計画(建物配置・色彩・植栽等)としている	<b>5.0</b>	0.40	-	-	<b>5.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.5</b>	0.30	-	-	<b>3.5</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	休憩棟(自動販売機+イトインスペース併設)を設置し、地域へ開	<b>4.0</b>	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>							<b>3.2</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		省エネ計算書による	<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.75	<b>3.5</b>	0.50	-	-	<b>3.5</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>1.0</b>	0.20	-	-	<b>1.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>1.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		1.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>2.2</b>	0.20	-	-	<b>2.2</b>
<b>1.1 節水</b>			<b>1.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.7</b>	0.60	-	-	<b>3.7</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			2.0	0.13	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			-	-	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		-	3.0	0.25	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		集成材、合板、パーティクルボード	5.0	0.25	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			2.0	0.13	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		モルタル・タイル仕上なし。コンセント等の躯体への打込みなし	5.0	0.25	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>2.6</b>	0.20	-	-	<b>2.6</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>		内壁塗装は低VOC製品を使用	<b>4.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>2.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		1.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		ライフサイクルCO2排出率に基づくスコア換算結果による	<b>3.4</b>	0.33	-	-	<b>3.4</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>		燃焼機器の使用なし	<b>5.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.2</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	出入口は交差点から離れた位置とし、車両用のスペースを十分に確保	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		3.0	0.50	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>3.7</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明なし。屋外照明は上方光束比5%以下の製品を採用	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	